

NEWS RELEASE

25th

四半世紀の感謝をこめて、
心からのおもてなしを。
Imperial Hospitality in Osaka

帝国ホテル 大阪は、本年、開業25周年を迎えました。



帝国ホテル
大阪

<http://www.imperialhotel.co.jp>

2021年(令和3年)7月15日

帝国ホテル 初代会長 渋沢栄一へ捧げるオマージュ

渋沢栄一翁にちなみ深谷ねぎのキッシュと オリジナルカクテルを発売

1階宴会ロビーでは渋沢翁と帝国ホテルならびに
渋沢翁が関わった企業にまつわる特別展示を開催中

2021年7月22日(木・祝)～2022年1月31日(月)予定



左：帝国ホテルの初代会長を務めた渋沢栄一（国立国会図書館ウェブサイトより）
右上：深谷ねぎのキッシュ（イメージ） 右下：オリジナルカクテル2種

帝国ホテル 大阪（総支配人：幸田雅弘、大阪市北区）は、「帝国ホテル 初代会長 渋沢栄一へ捧げるオマージュ」として、渋沢翁にちなんだ食事とオリジナルカクテルを 2021 年 7 月 22 日（木・祝）から販売します。

帝国ホテルは、1890 年（明治 23 年）、西欧化を推進する明治政府の要請に応じ、海外からの賓客をもてなすためのホテルとして開業しました。設立にあたっては、渋沢栄一や大倉財閥設立者の大倉喜八郎、三井物産を創設した益田孝など、当時を代表する経済人たちが設立発起人となり、宮内省をはじめ当時の名だたる財閥が出資するなど、まさに官民一体となって誕生した歴史があります。そして、渋沢栄一は、開業以来 19 年間経営を舵取りし、初代会長を務めました。

渋沢栄一が大切にしていた「社会の要請に応え、貢献する」という信念は、日本の迎賓館の役割を担い誕生した帝国ホテルの創業の精神そのものであり、当社が掲げる企業理念とも響きあっています。

今回は、帝国ホテル東京で人気を博したメニューを大阪でもご用意いたします。渋沢翁の出身地・埼玉県深谷市の特産物「深谷ねぎ」と、好物であったじゃがいもを使用した「深谷ねぎのキッシュ」。そして、オリジナルカクテルは、渋沢家の家業「藍」と渋沢翁の雅号“青淵”、そして帝国ホテルのコーポレートカラーにちなんで創作した「IMPERIAL BLUE～共に蒼き思い～」と、渋沢翁が生きた大正時代に帝国ホテルで誕生した「マウント フジ」をご提供します。

また、渋沢翁と帝国ホテル、ならびに渋沢翁が関わった企業にまつわる特別展示を 1 階宴会ロビーで開催中です。

詳細は次の通りです。

帝国ホテル 初代会長 渋沢栄一へ捧げるオマージュ 概要

■食事

販売期間：2021 年 7 月 22 日（木・祝）～2022 年 1 月 31 日（月）予定

販売場所・時間：カジュアルレストラン「カフェ クベール」（2 階）

11:00～20:00（ラストオーダー19:00）

メンバー「オールドインペリアルバー」（2 階）

16:00～20:00（ラストオーダー19:00）

※時間は 2021 年 7 月 15 日現在の情報です。

お問い合わせ先：カジュアルレストラン「カフェ クベール」TEL. (06)6881-4885

メンバー「オールドインペリアルバー」TEL. (06)0881-4886

●深谷ねぎのキッシュ

渋沢栄一翁の出身地（埼玉県深谷市）の特産物である深谷ねぎと、好物であったじゃがいもを合わせたキッシュです。深谷ねぎは2通りの調理法で仕上げ、飾りには食感が残るように輪切りにしたもの、生地にはソテーして甘みを引き出したものを使用。

さらに、ねぎと相性がよいスモークサーモンや、グリュイエールチーズも入れて旨みを加えました。注文をいただいてから焼き上げた熱々のものをご提供します。



（イメージ）

料 金：直径 9 cm 1,320 円（消費税込、サービス料別。）

■カクテル

販売期間 : 2021年7月22日(木・祝)～2022年1月31日(月)

販売場所 : メインバー「オールドインペリアルバー」(2階)

営業時間 : 16:00～20:00(ラストオーダー 19:00) ※時間は2021年7月15日現在の情報です。

お問い合わせ先 : メインバー「オールドインペリアルバー」TEL. (06)0881-4886

●IMPERIAL BLUE～共に蒼き思い～

渋沢家の家業“藍”と雅号の“青淵”、そして帝国ホテルのコーポレートカラーにちなんで創作したカクテルです(写真左)。

飾りは、渋沢家の家紋である「丸に違い柏*」をミントの葉で表現しています。

*丸に違い柏：柏の葉を二枚交差させたような紋柄。

料 金 : 2,200円(消費税込、サービス料別。)

●マウント フジ

渋沢栄一が生きた時代である大正時代に生まれた帝国ホテルのオリジナルカクテルです(写真右)。

卵白を使用しており、グラスの淵に飾ったマラスキーノチェリーで雪に覆われた富士山に登る朝日をイメージしています。

料 金 : 1,780円(消費税込、サービス料別。)



※新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、営業内容を変更させていただく場合がございます。

帝国ホテル 大阪 1階宴会ロビーでは、「渋沢栄一と帝国ホテル」「渋沢栄一が関わった企業」について展示をしています。 ※鑑賞無料

期 間: 2022年1月31日(月)まで(予定)

場 所: 1階宴会ロビー

展示内容: ・渋沢栄一と帝国ホテル

※協力: 公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

・渋沢栄一が関わった企業

渋沢栄一が関わった関西の企業を中心に協力いただきました。

(1) アサヒビール株式会社: 「アサヒ」「エビス」「サッポロ」3社合併に関する陳情書データ

(2) サッポロビール株式会社: 醸造場譲渡約定書(レプリカ)

(3) 大阪府中央公会堂: 定礎式の写真データ

(4) 東洋紡株式会社: 「順理則裕」の扁額(レプリカ: 文字は渋沢栄一が揮毫)

(5) 大阪ガス株式会社: 大阪瓦斯五十年史(監査役就任の旨が記載)

このニュースに関するお問い合わせ先

帝国ホテル 大阪

総支配人室

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-50

TEL. (06)6881-4600 (直通)

FAX. (06)6881-4620 (直通)

広報・企画課長 仲井 良平

広報担当 福田 奈津記 n.fukuda@imperialhotel.co.jp

川田 弥生 m.kawata@imperialhotel.co.jp

ご参考【渋沢栄一と帝国ホテル】

■帝国ホテルの設立と渋沢栄一

不平等条約改正を目指す明治政府にとって、帝都・東京を訪れる内外賓客をもてなすのにふさわしい宿泊施設の整備は急務でした。当時の外務卿（外務大臣）の井上馨は、渋沢栄一や大倉喜八郎といった大実業家に一大賓館の建設を持ちかけ、計画が動き出します。渋沢栄一をはじめとした当時を代表する経済人が設立発起人となり、宮内省をはじめ当時の名だたる財閥が出資をし、1890（明治23）年に帝国ホテルは開業しました。

渋沢栄一は、1890年の開業以来19年間経営を舵取りし、初代会長を務めました。

■渋沢栄一が帝国ホテルに残した2つの言葉

●1890年 帝国ホテル開業式の言葉（東京府知事の祝辞に対する答辞）

『その構造は美を尽さずと雖ども能く数百名の大賓を款待するに足るべく其器皿は金を鏤し玉を刻せずと雖ども五州水陸の珍什は一呼立どころに辨ず是れ本館の自から勉め自から任じて譲らざる所なり 知事閣下の其国の民意を察し其文明の點度を徴するに足ると言はるる如き者は本館励精を以て之を他日に期せんと欲す仰願くは朝野内外の貴賓此徴志を諒納せられ幸に眷愛を賜はらんことを謹て以て奉答し並に茲に鳴謝す』

（建物や設備・什器は美を尽くしたものではないが、数百名の賓客をおもてなしするに不足はなく、皿や器も贅をきわめてはいないが、用命があれば世界のどんなものでも調達して便宜を図る。これこそ帝国ホテルが自身の果たすべき役割と心得、絶対に譲らないところだ。知事閣下が、ホテルはその国の民意や文明度を示すものとおっしゃられたことについては、現在は力不足でも、近い将来必ず恥ずかしくないレベルを約束する。どうか、ご愛顧をお願いする）

●渋沢栄一が会長職を辞した後に帝国ホテルを訪れた際、従業員にかけた言葉

『色々の風俗習慣の、色々の国のお客を送迎することは、大変にご苦勞なことである。骨の折れる仕事である。然乍ら君達が丁寧能く尽して呉れれば、世界中から集り世界の隅々に帰って行く人達に日本を忘れずに帰らせ、一生日本をなつかしく思出させることの出来る、国家の為にも非常に大切な仕事である。精進してやつて下さいよ』

■渋沢栄一の精神が宿る帝国ホテルの企業理念

帝国ホテルの企業理念である「帝国ホテルは、創業の精神を継ぐ日本の代表ホテルであり国際的ベストホテルを目指す企業として、最も優れたサービスと商品を提供することにより、国際社会の発展と人々の豊かでゆとりある生活と文化の向上に貢献する。」は、初代会長である渋沢栄一の教えと深く響き合っており、そのDNAは今も脈々と帝国ホテルの従業員の心に受け継がれています。

■帝国ホテル 東京内に設置されている渋沢栄一の胸像

帝国ホテル東京の敷地内には、渋沢栄一初代会長の胸像があります。その胸像は、渋沢栄一が会長職を辞した16年後（当時86歳）の1925（大正14）年に造られました。当初は、1923年に開業した2代目本館（ライト館）内の中央にあった大食堂を挟んで、渋沢栄一像と、2代目会長の大倉喜八郎像がそれぞれ南北の中庭に設置されました。両胸像は、帝国ホテルの従業員一同が両翁の徳を慕って造ったものです。

1970年、現在の本館が完成した際に、現在の場所に移されました。

